

はたらく女性のフロア通信

発行日 2014年3月25日

NO. 18



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://www3.plala.or.jp/wwt/wwfk.html>

今、ねらわれていること

会員 君島 千佳子



◆労働者派遣制度について、1月29日に労働政策審議会建議と改正案要綱が示された。主な「改正」点は、1) 専門26業務と一般業務の区分を撤廃 2) 無期雇用派遣労働者、60歳以上派遣労働者等は期間制限を撤廃 3) 有期雇用派遣労働者については3年を上限とするが、一定条件により引き続き受け入れ可能、等である。

条件とは「過半数労働組合若しくは代表者からの意見聴取」である。聴取のみなので歯止めの役割は果たせず、永久に派遣を使い続けることも可能となる。

◆今でさえ、派遣の濫用が甚だしいこの国が、期間制限を撤廃したらどうなるか。さらに常用代替が広範に繰り広げられることは明らかだ。それは正規雇用をはじめ他の雇用形態に対するの圧力ともなり、労働者全体の条件切り下げ・不安定化を招きかねない。

◆派遣法は、労働者供給事業を禁止した職業安定法の例外として、1985年にスタートした。多くの反対の中で強行されたとは言え、まだこの時は、例外的に13業務のみ認めるという「禁止を

原則」とした制度だった。ところが度々の派遣対象拡大を経て、ついに1999年には5業務のみ禁止という「可能を原則」とする全く逆の姿に転換した。

制度というものはかくのごとく転落していく、という見本を見るような思いだった。その後2004年の製造業解禁に続き、今回の要綱の意味するところは大きい。

◆安倍政権の「労働ビッグバン」が目論まれている。上記の派遣法改悪、「限定正社員」を突破口とする解雇自由化、裁量労働制拡大等によるホワイトカラーエグゼンプションの導入、雇用維持姿勢の放棄、労働行政の予算と求人をも民間人材業者に提供、等々である。

解雇自由の正規雇用・有期雇用・完全自由化の派遣労働、これら出し入れ自由の形態を自在に使い、さらに労働時間概念を取り払い働かせ放題の日本をつくる——職業安定法・労働基準法の形骸化が狙われ、労働分野でも憲法体制が否定されようとしている。



かながわ女性センターの移転を考えるシンポジウム

6月1日(日) 13時30分~15時30分

場所 藤沢市民会館第2会議室

資料代 500円

内容 【各分野からの報告】 予定

○かながわ女性会議から(女性センターへの想い)

○女性図書館について…図書館業務に携わってきて/利用者として

○利用者の立場から(利用して役に立った)

女性のための相談を利用して/施設利用をして

○かながわ女性センター(行政から) ○かながわ女性センター建設当時の話し

主催: 県立かながわ女性センターを良くする有志の会



今年の国際女性デーと昨年出した拙著

会員 伊藤 セツ



3月8日、豊島公会堂で開かれた、2014年国際女性デー中央集会へ行きました。シンガポールの日本特派員の女性ジャーナリスト符祝慧さんの講演「アジアからみた日本—平和・メディア」は圧巻でした。現今のアジアの中での日本の位置が、日本から侵略を受けたシンガポール人の目を通してどのように把握されるか、外国の特派員たちが、世界の中での今の日本の保守化をどのようにみているかが、非常にクールにリアルに語られて、今年の日本の国際女性デーにとってもふさわしい講演でした。

1910年に第2インターナショナルの女性会議で創設された国際女性デーは、こうして100年以上、世界中で闘われてきたことを思うと、創設の決議文を書いたクララ・ツェトキーンの研究の私としてはジーンとくるものがありました。

昨年（2013年）暮れ、私は『クララ・ツェトキーン ジェンダー平等と反戦の生涯』（御茶の水書房）という本を出版しました。2013年は、クララの没後80年、それにベーベルの没後100年でもあり、私が、クララのテーマと取り組んでから丁度50年でした。

本は、厚くて（6.5cm）、重くて（1.5kg）、長くて（1000頁を超える）、高くて（本体15,000円）売れそうにありません。

でも、「国際女性デー」には、今年も国連事務総長パン・ギムンが全世界の、人権・平等・平和のためにたたかっている女性を励ますメッセージを出しました。1977年からこの日は、国連が決議した「国際デー」となったからです。この間の歴史を理解するには、この本の長さでも足りないくらいです。

今年2014年は、第1次世界大戦から100年です。100年前にクララ・ツェトキーンが、どんなに反戦運動をしたかを知ること、今日の情勢ではとりわけ必要です。「日本人は忘れっぽい」と符祝慧さんは云いましたが、今日の女性運動を強めて行くためにも、忘れてはならないことを本書で私は書いたつもりです。どうぞ図書館に推薦して下さい。

今年2014年は、第1次世界大戦から100年です。100年前にクララ・ツェトキーンが、どんなに反戦運動をしたかを知ること、今日の情勢ではとりわけ必要です。「日本人は忘れっぽい」と符祝慧さんは云いましたが、今日の女性運動を強めて行くためにも、忘れてはならないことを本書で私は書いたつもりです。どうぞ図書館に推薦して下さい。

*本の表紙のクララ・ツェトキーンの写真は、世界初公開とのこと。

2014年国際女性デー 神奈川県集會に参加して 会員 小島 八重子

2014年国際女性デー神奈川県集會が3月8日、13時50分から神奈川県総合薬事保健センターで開催され、全県から約250人が参加しました。椅子が足りなくなるなど会場を埋め尽くす参加者で、熱気に包まれました。

記念講演は、「いま、私たちが引き継ぐもの—時代を切り開いた女性の歩みに寄せて—」と題して米田佐代子さん（らいてうの家館長）からのお話です。

米田さんは、安倍内閣は最悪の内閣、政策がひどいだけでなく、ナチス政権が「ウソも百遍繰り返せば真実になる」といった手法でドイツ国民を熱狂させた同じやり方で「憲法改悪」をし、「戦争する国づくり」をすすめている、と怒りをぶつけます。

戦前戦後の平塚らいてうや宮本百合子たちの生きた時代に照らし合わせ、先人たちが悩み、切り



開いてきた平和と男女平等を守り未来に引き継ぐために、いま私たちがすべきことは何かを、力強く話されました。

そして、最後に、「怒っているうちが、ハナなのよ」と「現実から目をそらさず、そして怒りを続けよう」と閉めくくりました。

米田さんのお話の後の、発言の広場は、それこそ、「女たちの怒り」の場で、大いに盛りあがりました。

「茶色の朝」を再読して

会員 藤田 まさ子

フランスで出版された「茶色の朝」という寓話をご存知ですか。10年前に大月書店から高橋哲哉さんのメッセージを入れたオリジナル編集として出版されました。高橋さんの解説をそのままお借りして作品を紹介すると「ひとことで言ってしまうと、すべてが茶色だけになってしまう物語です。ある国のなかで、茶色以外の猫、犬、『茶色新報』以外の新聞、『茶色ラジオ』以外のラジオなどいっさいの存在を許されなくなっていくのです。」

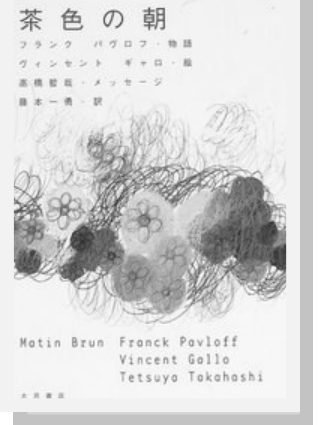
10年前に読んだときは、その時の情勢に怒りを覚えながら、こうなってはいけないと漠然と思ったものですが、現在の心境は、こうってしまう前触れに不安を抱くという変化が生じています。人々は未来に対するある種の恐怖からの脱皮に日々格闘していると思います。

3月に入ったのに桃の花が縮こまるほどの寒さ

の3月2日の日曜日、横浜公園において「2014春闘勝利3・2神奈川県民集会」が開催されました。小池晃さん、落語家、港湾労組、脱原発金曜行動の青年、新婦人、年金者組合、建設労連などから力強い訴えが続いたなか、年金者組合がサンバのリズムで、「70歳、80歳なんてまだまだ若い、90歳もこれからだ」と歌い踊ったパフォーマンスに妙に釘付けになってしまいました。

そう。諦めたら終わりだ。どんなことがあっても仲間の存在を大事にして、繋いだ手を離さないで乗りきっていこう。社会はまだまだ課題だらけだが、人間の歴史は確実により人間らしいことを追求して変化している。そこには、いつも、国民、労働者の闘いがあった…。

私はそういうことを心のなかで呪文のように繰り返し考えようとしていました。



小さいおうち

会員 本間 重子

みなさんご存知の「男はつらいよ」をはじめ数々の名作を世に送り出してきた山田洋二監督の82本目の作品である。女中タキ役の演技で女優黒木華が、最近ベルリン映画祭で助演女優賞を受けたことでも話題になった。



昭和初期、東京郊外の坂の上に建てられた洋風の赤い屋根の小さいおうちで営まれた暮らしぶり、その家族の中におこった“秘密”を、あたたかくもすどく心の奥にふみこんで描いている。

物語には時代背景があり、1935（昭和10）年から終戦直後、2000（平成12）年頃と、二つの時代が交差しながら進められる。布宮タキ（黒木華、老後は倍賞千恵子が演じる）が大学ノートに書き記す“自叙伝”をめぐって、甥の大学生健史（妻夫木聡）とのやりとりの中で二つの時代が描きだされている。

故郷を離れて奉公にでたタキは、小説家の屋敷に1年ほど仕えた後、赤い屋根の小さいおうち平井家に奉公する。玩具会社に勤める夫雅樹（片岡孝太郎）とその若く美しい妻時子（松たか子）と幼いひとり息子が暮らしていた。新年、会社社長や同僚が集まって日中戦争の動向やオリンピック、金儲けの話で盛り上がる中に、話の輪に入れないデザイン部門の新人板倉正治（吉岡秀隆）がいた。板倉と時子が秘密をもつことになる。しかし、板倉に召集令状が来た。

この秘密をめぐる物語が核になってはいるが、日中戦争前後から第2次世界大戦敗戦まで、この時代を生きた小市民の暮らしぶりや生活の中の喜怒哀楽、考え方などを深く細やかに描いていることもさすがである。

タキの死後、遺された数冊のノート“自叙伝”の中に、板倉に渡されなかった時子の手紙があった。戦後社会人となった健史は偶然のめぐり合わせから、タキが涙にくれて書き終え封印した秘密が明かされる場面に向き合う。

せりふひとつ、しぐさひとつにも意味を込めた山田映画を堪能しました。

第60回日本母親大会in神奈川

8月2日(土)全体会 12:30~17:00

8月3日(日)分科会 10:00~15:00

本の紹介

会員 池田 資子

『性と柔』女子柔道史から問う

溝口紀子著



2013年1月29日、女子柔道の国際試合強化選手15名が、園田全日本女子ナショナルチーム監督をはじめとした指導陣による暴力行為やパワーハラスメントを訴えた事実が公になった。私は特に柔道に関心があるわけではない。この事件がなかったら、多

くの新聞本の中で『性と柔』に注目することはなかったと思う。事件の原因は何か知りたかった。

著者の溝口紀子さんは、バルセロナ五輪の柔道銀メダリストで、スポーツ社会学者。表紙に載っている黒帯には真ん中に白線が1本入っている。これが日本女子の黒帯で国際ルールでは1999年に黒1色になったが、日本国内ではまだそのまま

使用されている。ということも私は知らなかった。

本書は2部構成でそれぞれ2章よりなる。

第1部は柔道史から社会を見つめる、第2部は女性と柔道。勿論、私の関心は第2部にあるが、著者が主題としているのは、柔道史であり、「男性の視点から書かれている柔道史を女性の視点でとらえたい」と述べている。

柔道史は講道館を中心とする歴史になっていて、大日本武徳会などの流派があったことは正確に記されていない、講道館と武徳会では女子の柔道の扱いが異なっていた。海外における柔道、フェミニズムと柔道など興味深い点が多い（初めて知ることばかり）。「柔よく剛を制す」と言う。ジェンダーフリーなイメージとして欧州では抑圧から女性を解放させる一助となったという指摘は特に印象的。

では、知りたかった原因とは何だったのか。

圧倒的な男社会であること、歴史における差別、暴力を容認してきた柔道の指導、お家芸・勝利至上主義の考え方、競技力での国際的な遅れで日本柔道が勝てなくなってきた現状といったところだろうか。著者は柔術・柔道の「規範」と現在柔道の大きな歪みから生じたと言っている。

軽い気持ちで手にした本書だが、柔道愛する著者の気持ちですっぱり重い本だった。十分には理解出来なかったし、多少読みにくく、時間がかかった。

いのち 生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

第59回 神奈川県母親大会 第55回 横浜母親大会

2014年 5月24日 土 10:00~16:00 関内ホール・大ホール

午前の部10:00~12:00 映画上映(映画協力300円) 記念講演 「21世紀を、生きるよろこび・働くよろこびへ」
—フクシマからの声—

標的の村 山形国際ドキュメンタリー映画祭2013 市民賞 & 日本映画監督協会賞W受賞

スクリーンに叩きつける、伝えきれない沖縄
2012年9月29日、アメリカ軍普天間基地は完全に封鎖された。この前代未聞の出来事を「日本人」は知らない。
アメリカ軍・普天間基地が封鎖された日、全国ニュースから黙殺されたドキュメント!!

資料代1,000円
大学生500円
小・中・高校生無料

プロフィール
後藤 宣代 さん 経済学研究者 福島市在住

後藤 宣代 さん 経済学研究者 福島市在住

午後13:00~16:00 全体会

☆オープニング 横浜学童保育の子どもたち
☆文化行事 太田 真季 さん 「タイムトゥセイグッバイ」「春なのに」ほか
☆記念講演 後藤 宣代 さん
◎運動の交流・アピール採択など ◎母親パレードあります。

☆保育あります 無料・事前申込 ☆展示交換会も!

太田 真季さん